

安全運転のために

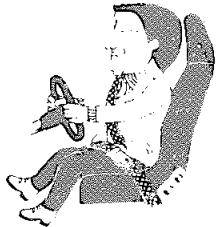
★正しいドライビング・ポジションは急カーブや振動に対して身体がふらつかず、両手両足を敏速かつ、正確に動かせる姿勢です。

また前後の視界が十分確保でき、長距離運転にも疲れない姿勢であることも大切です。(シートの調整の項目参照)



★シート・ベルトは

必ず装着して運転しましょう。特に腰ベルトは腰骨の位置にピッタリと装着しましょう。(シート・ベルトを忘れずにの項目参照)



腹の位置にかけると万一のとき身体にくいこみ危険です。

★ヘッド・レストの位置は

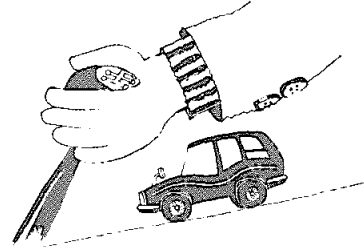
ヘッド・レストの間はにぎりこぶしの幅以上あけないようにしましょう。



ヘッド・レストの間隔が広いと万一のとき危険防止に役立ちません。

★長い坂道を下る場合は

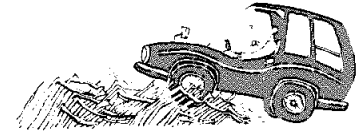
エンジンブレーキを活用しましょう。(ブレーキ、クラッチの使い方の項目参照)



フット・ブレーキを踏み続けるとブレーキの効きが悪くなる恐れがあります。

★駐停車するときは

1. 枯草など燃えやすいものの付近や、上に車を乗り入れたたり、駐停車しないでください。



排気管付近はかなり高い温度になるので、万一の場合枯草などに着火する危険があります。

これだけはぜひ！
守りましょう！

★注意

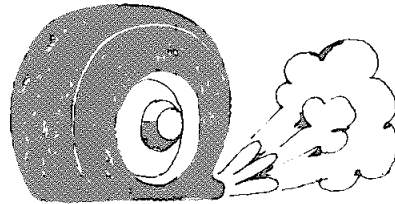
やむを得ず枯草などの中に入り込んで、駐停車する場合は

- (1) エンジンを必ず止めてください。
 - (2) 走行する前に、枯草などの可燃物が排気管に巻きついたりしていないか点検してください。
2. 密閉した車庫内などで、エンジンをかけたままにしないでください。

★タイヤは

1. 走行前に必ず空気圧を点検しましょう。(タイヤの空気圧の項目参照)
2. 摩耗して溝が浅くなったら取り替えます。

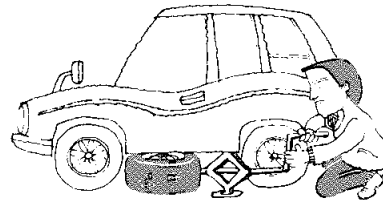
(タイヤの溝の深さの項目参照)



空気圧が適正でなかったり摩耗がはげしいような場合は、走行中、パンク、バーストを起こしやすくなり危険です。

★ジャッキを使用するときは

所定の位置に確実にセットしましょう。輪止め、パーキング・ブレーキを忘れずに。(パンクの処置の項目参照)



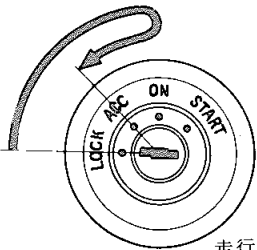
ジャッキがはずれると車が急に傾き大変危険です。

★走行中エンジンを停止しないでください。

ブレーキ・ブースタが作用しないので、ブレーキの効が悪くなります。

★エンジンを停止して車を移動する場合は
(けん引される場合など)

1. エンジン・スイッチを一度ONにしてからACCの位置にしましょう。
(エンジン・スイッチの項目参照)

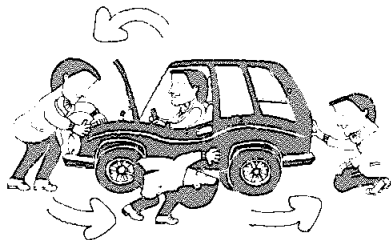


走行中はキーを絶対にロックの位置に回さないでください。危険です。

2. ブレーキ・プースターは作動しませんので通常より大きな踏力が必要です。

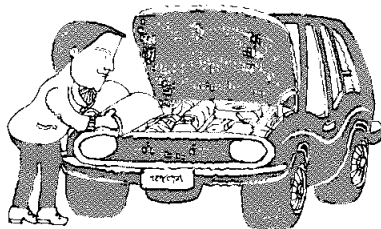
★仕業点検は

故障を未然に防ぐために必ず行ないましょう。
(仕業点検の項目参照)



★定期点検は

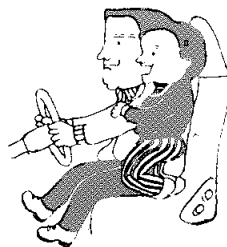
法令でも定められていますので整備手帳に基づいて必ず行ないましょう。



車の性能を維持し安全に運転していただくためには大切なことです。

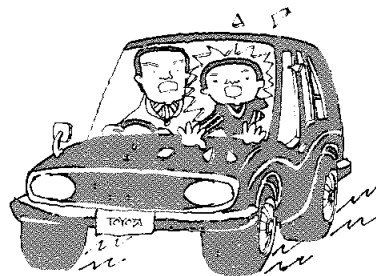
お子様を乗せるときは

★なるべくおとなと一緒にリヤ・シートにすわらせましょう。

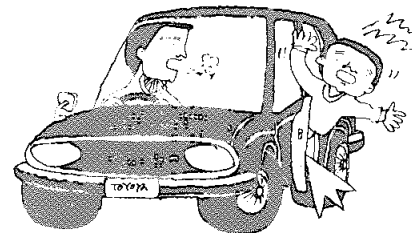


助手席ではドライバーのじゃまになります。

万一のとき放り出される心配があります。



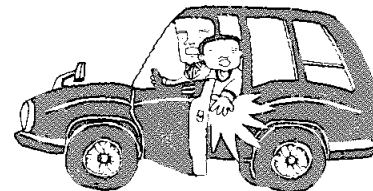
★ドアのロックを確実にしましょう。



ロックをすれば、ドア・ハンドルをいじっても、ドアは開きません。

★必ずおとながドアの開閉をしましょう。

お子様が手をはさむと危険です。



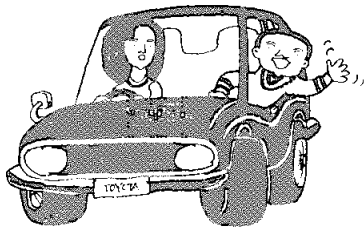
★車から離れるときは、お子様と一緒に連れて行きましょう。



室内にお子様を残しておくと思いがけない事故が起きる場合があります。

★窓から顔や手などを出させないように
しましょう。

窓から乗り出すと思いがけない
ケガをすることがあります。



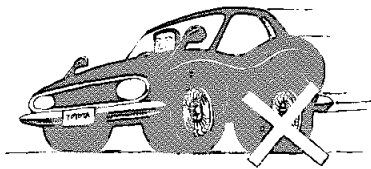
対向車や後続車に迷惑をかけ
またマナー違反です。

故障を防ぐために

★車に装着する部品は

車の構造に適した純正部品を使用しまし
よう。

特に車の走行に関連するところにはメー
カーが運輸省に届出をした指定の部品以
外は使用しないでください。



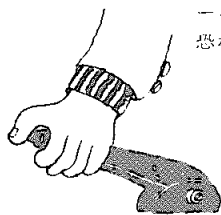
車の性能や機能に適しない部品を
装着すると、思いがけない事故が
発生する場合があります。

★パーキング・ブレーキ・レバーは

走行する前に必ず確実にもとまでもどし、
インジケーター・ランプが消灯するのを
確かめてください。

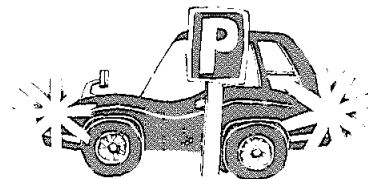
(パーキング・ブレーキ・レバーの項目参照)

ひいたまま走行すると
ひきすりを起こしブレ
ーキの効きが悪くなる
恐れがあります。



★バッテリーは

完全充電でもエンジンを停止してランプ
類を使用すると消耗がはげしいものです。



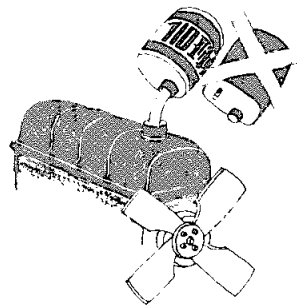
バッテリーがあがりエン
ジン始動ができなくなる
ことがあります

★エンジン・オイルの補給は

同品質のオイルを使用しましょう。

なお、エンジン・オイル添加剤を使用す
るときはトヨタの推奨する添加剤を使用
しましょう。

(トヨタ純正キャッスル製品の項目参照)



質の異なったオイルやエンジン・オイ
ル添加剤を使用すると性能が低下する恐れ
があります。

★ブレーキ、クラッチ・フルードを補給 するときは

同品質、同銘柄のフルードを必ず使いま
しょう。なおタンク内にゴミがはいらな
いように十分注意しましょう。

(トヨタ純正キャッスル製品の項目参照)

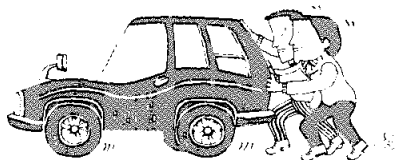


ゴミが入ると、
ブレーキが効か
なくなり、クラ
ッチは切れなく
なることがあり
ます

万—のときは—

★エンストして始動ができなくなったときは

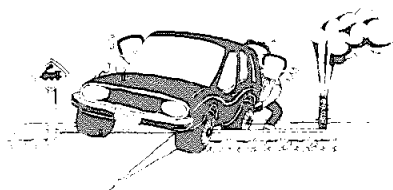
1. 付近に人がいる場合は安全な場所まで押してもらってください。



2. 踏み切りなどで、急を要するときは、スターターで抜け出してください。ギヤをセカンドまたはサードに入れ、スターターを回します。

このときクラッチから足を離しておきます。また平坦路の場合は、トップにすると早く抜け出せます。

3. 踏み切りなどで抜け出せない時、列車が来そうになったら保安炎筒で合図してください。



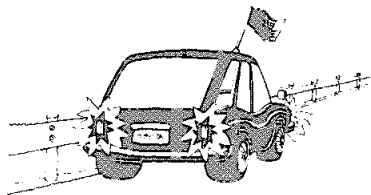
★高速走行中、パンクやバースト(タイヤの空気が急に抜ける)したとき

ハンドルをしっかりとって急ブレーキは踏まないようにしましょう。

急ブレーキを踏むとハンドルを強くとられ、車が横転することがあります。

★故障したら

車を路肩に寄せハザード・ウォーニング・ランプを点滅させるか、または、故障車とわかるように赤旗などを目につくように表示します。



★遠出して故障し、なおせないときは整備手帳のサービス網をご覧になって、最寄りの取扱い販売店へ連絡しましょう。